



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	緑研化学株式会社 浜岡事業所 C棟新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取り組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	凡例
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.2	/5		ふつつ
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつつ
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.4	/5		がんばろう
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.0	/5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例

よい	ふつつ	がんばろう
4点以上	3点以上	3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.2
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①窓U=4.21(W/m²) 外壁U=0.56(W/m²)</p> <p>③ブラインドによりグレアを制御</p> <p>④外壁 ALC+塗装 15年以上(塗装塗替え) 内装 クロス貼り 10年程度 設備配管・ダクト 30年以上 主要設備機器 15年程度</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPI_m=0.83 ⑧BEI_m=0.89 LED照明の採用。省エネ機器の導入。 ⑩運用管理体制を組織化している。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水型便所(TOTOピュアレスト)を採用。 雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫躯体部分における鉄骨・鉄筋に電炉材を採用予定。 S適につき、解体時に躯体と仕上げ材の分別が容易。 ⑬不活性ガス(CO₂)消火設備の採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮仮想敷地内での緑地確保は難しいが、できる範囲に設けた。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	3.2	
	<p>■サービシ性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯建築基準法の1.2倍 設備機器は耐震クラスA以上で設置予定</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>	3.1
	<p>■サービシ性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準の半分以上を満たしている。</p> <p>⑳すべての階高が3.9m以上とゆとりがある。壁長さ比率=0.17と間取り変更には柔軟に対応できる。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	2.4
	<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)</p> <p>㉔建物形状・外装の配色は工業地域内で周辺の環境に調和するように配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善)</p>	<p>Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑵ まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑵ 温熱環境悪化の改善</p>	2.0

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	綜研化学株式会社 浜岡事業所 C	階数	地上4F
建設地	静岡県御前崎市池新田字南川端88	構造	S造
用途地域	指定なし、法第22条区域	平均居住人員	115 人
地域区分	7地域	年間使用時間	5,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年2月21日
敷地面積	37,205 m ²	作成者	松本浩敬
建築面積	1,557 m ²	確認日	2020年2月21日
延床面積	3,395 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 CASBEE静岡2016年版による評価結果である。静岡県御前崎市にある同社工場の敷地内に新設する事務所付工場である。工場部・執務部共、等間隔に分散された開口部により一定に光を確保された空間となっている。従業員が効率よく従事できる環境を整えた。経営理念にある「働く喜びの実現」に繋がる職場の環境づくりを目指す。また、階高・荷重にゆとりがあり、設備の更新や、将来の間仕切りや用途変更を含むリニューアルに柔軟である。</p>		
<p>Q1 室内環境 トップライトや、規則性のある開口部の配置により、居室内の照度や換気空調によるオフィス内環境を向上させている。</p>	<p>Q2 サービス性能 内部空間はほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気質環境の確保を図っている。居室の天井高さや空間構成に余裕を持たせている。また通信機器の充実や、設備機器の更新についても、長期の計画を見据え</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 本敷地(仮想敷地外)に緑地を配置している為、公共空間からはほとんど見えないが、建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー 省エネ効率の高い設備採用をするよう環境に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用し、水資源の保護に配慮している。鉄骨造の為、建物解体時に分別が容易であり、リサイクルへの向上を図る。</p>	<p>LR3 敷地外環境 燃焼機器の使用が無い為、大気汚染対策に配慮している。屋外照明の抑制や、屋外広告物照明が無いことにより、周辺環境へ配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される